

## **2022 年度事業計画案**

### **1. 当学会の問題意識と基本的な考え方**

今日、学校、会社、NPO などの事業組織の他、政府や自治体の行政組織などにおいて、「キャリア」という言葉は広汎に使われるに至っている。だが、その意味するところや目指すところは必ずしも同じではなく、意思の不統一や実践上の混乱なども垣間見られる現状も少なからずある。

日本キャリアデザイン学会は、学際的な学会であるだけでなく、キャリアに関する学術研究と現場実務との相互交流及び相互作用を重視する、唯一無二の学会である。その特徴を活かし、キャリアおよびキャリアデザインにまつわる状況の整理と新たな発見を絶えず行い、あわせて現場実態の包括的な把握や理論的・実証的検証を行う。それにより、キャリアデザインによるウェルビーイングやエンゲージメントなどの向上とそのための施策や環境整備の提案・推進に取り組む。

これらの活動を通じて、キャリアに関する基礎研究とその重要な成果の共有と普及を広く行っていく。

### **2. 今期および中期的活動計画**

2021 年度は、新型コロナウイルスの感染が終息しない状況のなかではあったが、研究大会企画委員会をはじめとする学会関係者の献身的な努力と工夫により、法政大学をホスト校として研究大会を初めてオンライン形式で開催した。その結果、大会として過去 2 番目の多数の参加者を得、活発な議論が行われるなど、学会の新たな一歩を踏み出す一年となった。そのほか、キャリアデザインライブや支部活動なども、オンラインまたはハイフレックスなどの形式も活用しながら、着実に再開、展開されるに至った。学会誌の刊行や広報活動なども、感染等による影響に左右されることなく、安定的に運営が進んでいる。

また新理事長による新たな運営方針として、2021 年度と 2022 年度は学会が今後無理なく続いていくための足場を固める 2 年間として位置づけられた。具体的には「必要最小限の業務への選択と集中」「学会存続を最優先した業務見直し」「委員会等業務のマニュアル化推進」「学会員の多様性確保に向けた検討」「学会の地域連携・支部活動の充実」「学会活動におけるオンライン活用の定着」「学会役員「懇談会」による自由闊達な議論」の活動方針が示され、理事会にて承認の上、それらに応じた諸活動が推進されている。さらに上記の運営方針の実践として、既存の委員会組織に加え、「学会運営体制整備本部」（リーダー・荒井明専務理事）、「地域連携・支部活動推進本部」（リーダー・金井篤子理事）が 2 年を時限に設置されている。また学会運営をより円滑化することを目的に、事務局長（専務理事兼任）および事務局次長について、ともに大幅な増員を実施した。

これらにあわせ、これまでの成果とディスカッションを踏まえ、キャリアデザインの「創造的相互作用」を引き続き深化させるとともに、研究活動、社会活動、地域活動、企業活動などのさらなる発展に資する成果の獲得を活動目標に、委員会活動をそれぞれの特徴を活かし展開していく。代議員と役員予定者に関する電子投票の導入など、2019 年度から移行した一般社団法人としての活動も定着してきており、今後は 2024 年度の 20 周年の区切りも視野に入れつつ、柔軟性と創造性に富んだ学会活動を続けていく。

#### **(1)研究組織委員会の活動**

各委員長を中心に、諸活動を推進する。

##### **① 研究組織委員会**

昨年度に引き続き、学会としてのキャリアデザインに関する学術的研究の方向性、および方針を総合的に検討する。コロナ感染を契機にオンラインを活用した学会活動について経験もノウハウも蓄積され、安定的な運営ができるようになったが、今後は対面、もしくはハイフレックス開催についてもノウ

ハウを積み上げていく。研究発信としては、学会誌のデジタル公開の検討を続け、研究・実践集会と学会報告を繋げるためのセミナーセッションを今後も定期的で開催していく。様々な形での集会、発信方法による学会の更なる発展に向けた検討を、今後も継続していく。

## ② 研究大会企画委員会

第19回大会の運営に向け、第18回研究大会（オンライン開催）の振り返りと奨励研究ならびに自由研究発表の募集要項、選考方法について課題点を整理する。それらを踏まえ、第19回大会テーマ、開催方法を含む基本方針の検討決定し、自由研究発表の募集、大会企画の検討、及び当日の運営を行う。併せて、奨励研究の募集ならびに審査を行う。また、第20回研究大会の開催校を検討する。さらに、委員会業務の見直しを行う。

## ③ 研究会企画委員会

キャリアデザインライブについては、来期も継続的にハイペースでの開催を予定している。コロナの影響が軽減しても、全国の学会員のためにオンライン企画は継続し、純粹リアル企画、リアルとオンラインとのハイフレックス企画等をどのように並行開催していくかを模索する期になる。また、先期は未着手だった学会ホームページの検討についても、複数の専門委員を置いて検討していきたい。

## ④ 研究誌編集委員会

『キャリアデザイン研究 Vol.19』への投稿を促す。デジタル化について進めるためにJ-STAGEと交渉を続ける。

## ⑤ 広報委員会

キャリアデザイン・ニュースレターおよびキャリアデザインマガジンの定期号および必要に応じた臨時号の発行と、Facebookへの投稿による学会活動の広報とタイムリーな情報提供を継続する。会員向けのサービス充実に向け、会員投稿の促進・活性化をはかるとともに、各メディアのコンテンツを、地域交流連携などの観点もふまえつつ見直し・充実をはかる。企業人交流会については対面での開催の再開に取り組む。あわせて、情報配信方法の多様化を引き続き検討する。

## ⑥ キャリア研究・政策・国際交流委員会

今後も年1回のペースで、「キャリアのアゴラ」を開催し、キャリア政策の方針とキャリア研究や実践の関連を議論していく。また、「キャリアの本棚」という研究集会を企画していく、これは研究テーマや共通文献を幅広く共有するためのイベントになる予定である。

## ⑦ 20周年記念事業委員会

20周年（2024年度）の記念事業実施に向け、委員を増員し、①20周年記念小冊子の作成、②学会ロゴの作成、③学会賞の創設について、計画的に行うことを検討する。

## (2) 地域活動

各支部長と連携を図りながら各支部主催の研究会の推進、地域の会員との交流会を開催する。

### ① 関西支部

年2回の支部研究会、年1回の支部研究大会の開催を検討、実施することにより、関西地区の研究活動・実践活動の充実を図る。

### ② 中京支部

年3回研究会を計画し、開催することにより、中京地区の研究活動・実践活動の充実を図る。

## 3. その他の活動

会員へのサービス向上につながる施策を打ち出し、積極的な参加の促進と新規会員の獲得に努める。役員と会員の協働によって諸活動を推進していきたい。

既存の委員会組織に加え、「学会運営体制整備本部」（リーダー・荒井明専務理事）、「地域連携・支部活動推進本部」（リーダー・金井篤子理事）が2年を時限に設置されている。

### ① 地域連携・支部活動推進本部

1. 地域ニーズの把握のための企画を検討し、実施する。
2. ニーズを把握後、具体的な活動方針を検討する。
3. 支部活動のあり方について、検討する。
4. 関西支部と中京支部の連携を模索する。

### ② 学会運営体制整備本部

新会長の方針のもと新たな視点で、持続的発展の基盤を確立しうる組織体制の構築と一般社団法人に相応しい会員登録システムの刷新、入会審査の業務フローの簡素化、事務局業務の1)現状の業務の洗い出し、2)あるべき姿の検討、3)具体的な業務の見直し（集約、分散、廃止、体制や役割分担の見直し、IT化など）案の作成、4)業務移行計画の策定を実施していく。

以上